

## 札幌市立白楊幼稚園の取組【雪に関する教育課程】

### 1 研究のねらい

本園では昨年度から研究主題「じっくり遊ぶ子どもを育てる」を掲げ、研究を進めている。幼児が自ら興味、関心を高め、じっくり遊ぶことを通して、「集中して取り組む力」「自分なりに表現する力」「考えたり挑戦したりする力」等が育まれることを実践事例を通して捉えてきた。札幌の冬の期間も、友達と元気に遊び過ごすことができるよう、事業のテーマを「雪！大好き！札幌の冬を友達と一緒に楽しもう！」として実践を積み上げた。

北国札幌と本園の環境を生かし、雪に親しみながら、体を動かして遊ぶ楽しさや友達と一緒に様々な活動に取り組む楽しさ、自然の美しさや不思議さに気づき遊びに取り入れる楽しさ等を十分に味わえるよう、環境の構成や教師の役割を改めて考える。さらには、保護者にも一緒に雪遊びを楽しみ、親しむことを願っている。

### 2 取組内容

#### (1) 保育環境の工夫

##### ① 園庭の環境

- ・雪の降り始めの頃、ぬかるみを楽しんで歩いたり雪と砂を混ぜてままごとをしたりした。少ない雪を取り入れやすいシャベルやスプーン等を用意すると、思い思い遊ぶ姿があった。教師は積極的に戸外に出る機会をつくり、幼児の驚きや発見、工夫していることに共感し、「楽しい！」「また遊びたい」という思いを大切にした。
- ・園庭に雪が積もるとそり遊びが盛んになった。雪山を滑ったり友達を乗せたりした。また、雪の柔らかい隅の方は、掘ったり積んだりしてかまくら作りや基地作り等を楽しんだ。どのようにしたら固くなるのか等、友達と試行錯誤して楽しんでいる姿があった。



##### ② 遊具用具等の準備

- ・砂遊び用のバケツやスコップ、雪遊び用の大き目のスコップやボブスレー、スノーチューブ等、幼児の遊びの様子はもちろん、積雪の状況に応じて準備した。幼児が自分で出したり扱ったりしやすいよう配慮し、使用時の約束事を教師全員で再確認した。また室内から園庭へ出やすいように靴を脱ぎ履きするホールベランダの環境を改善するなど工夫した。

##### ③ 「寒い・冷たい」を楽しむ工夫～アイスシャーベットづくり

- ・気温が更に低くなる1～2月は戸外へ出ることに消極的になる幼児もいるため、変化が目に見える、食べる喜びがある遊びを投げかけた。年長児を中心にジュースと魔法の粉（塩）を使った簡単なアイスシャーベットづくりでは、不思議さを感じながら

じっくり取り組んだり、友達と見比べながらより固めようとしたりする姿があった。また、家庭でも準備できる材料であることから、親子で取り組める遊びとなった。



## (2) 家庭・地域・小学校との連携の中で

### ① 親子で遊ぶ（保育参加『コアラの日』、雪と楽しむ会）

- ・保育参観の一つとしての「コアラの日」や「雪と楽しむ会」は、保護者の力を借りて雪像やかまくらを作る等、ダイナミックな遊びが楽しめる取組となった。チューブ滑りでは、「速さよりも親子で楽しくね!」の担任の言葉に、思い思いに滑る様子が見られた。遊びの楽しさや育ちの様子を知ってもらう機会となった。

### ② 地域の環境を生かして

- ・園の近隣にある公園に築山や小学校の雪山を利用させていただいた。広く大きな雪山のため、友達や先生と体を寄せ合ったり、いろいろな体勢で滑りを試したり等、全身を使いよりダイナミックな遊び方ができる場となった。

## (3) 園内研修で雪に関して学ぶ

- ・講師に小学校教諭を招き、札幌の雪の現状や小学校における雪に関する授業の取組を聞いた。各学年に応じ、様々な教科で取り扱われていることが分かった。
- ・幼児期は、興味関心を高め、雪と十分に親しみ楽しさを感じることで、小学校生活に生かされていくと考えた。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

教師が改めて雪の環境を工夫することで、幼児は興味、関心を高め、不思議さを感じたり友達の考えを取り入れたり、新たな発見をしたりしていた。幼児の、「やってみたい」「～したらどうなるだろう」等の思いに共感し寄り添いながら環境を柔軟に再構成していくことで、主体性や遊びへのさらなる意欲を育むことにつながったと考える。また、友達と一緒に楽しい経験も積み上げることができた。

### (2) 課題

雪に親しみながら遊ぶ中で、幼児が経験していることや育ちを、保護者や地域へ分かりやすく発信していくことをこれからも続けていく。

様々な雪の状態に合わせた遊びを幼児とともに考えていくことが必要である。

札幌市の各機関で実践されている雪に関する取組を知ること、より雪を身近に感じることができる。保育に活かせることを積極的に学べるようにする。